

平成24年度事業報告

西宮すなご医療福祉センター

平成24年4月1日に、障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行のための法律「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」(以下「つなぎ法」)が施行されました。障害児・者の地域移行を法定化し、相談事業、児童発達支援事業や生活介護事業、訪問看護・居宅介護事業の整備・強化、放課後等デイサービスや保育所等訪問支援事業の新設が盛り込まれました。当センターも「つなぎ法」に迅速・適確に対応し、将来の「障害者総合支援法」にも適応できることを目指して体制整備に取り組みました。セーフティネットとしての役割を担う入所部門は、重症化した入所者に対応できるようにオーダーリングシステムの導入など病院機能の整備を行うとともに個別支援計画を見直して個々の利用者に充実した支援を提供できるようにしました。地域で生活する重症児者のための短期入所や支援入院の利用率を向上させるとともに重症化への対応を行って、在宅の重症児者のご家族の期待に応えました。重症児者通園事業は法定化に合わせて、生活介護と放課後等デイサービスを一体的に運営して、重症児者の日中活動を支援しました。また、地域において需要の大きかった発達障害児を対象とした児童発達支援事業(児童デイ)を開始しました。重症児専門に運営してきた訪問看護ならびに居宅介護部門の体制強化と並行して、総合相談支援センター内に障害部門を創設するための準備を行いました。相談支援部門は、厚労省「重症心身障害児者の地域生活モデル事業」を受託して重症児者ケアマネジメント手法を用いた重症児者の地域生活支援を実施し、結果を平成24年度報告書としてまとめました。

障害福祉サービス等の報酬ならびに診療報酬の改定が4月から実施されました。物価下落を反映した介護報酬単価の切り下げ(0.8%)と、診療報酬の全体としての据え置きの中で急性期医療や救急、小児医療への傾斜配分を反映して、慢性期医療に関係する部分での実質的切り下げがあり入所部門の事業収入は減少しました。しかし、地域支援部門の収入増加に伴い、全体としての事業収入は昨年度より若干増加しました。一方で、重症化した利用者に高度なサービスを提供するために経費も増加し、經常収支は若干減少しました。

当センターは法人理念の実現に向けて地域に開かれた施設となるための取り組みを着実に進めてきました。利用者だけでなく外部からも一定の評価を得ることができたと考えています。

事業活動報告

1. 施設運営(入所、地域支援)

「つなぎ法」における制度改革に適合した事業所として運営を行い、入所部門、地域支援部門とも着実に実績を積み上げました。

- ① 入所部門は、療養介護事業所(18歳以上)と医療型障害児入所施設(18歳未満)として一体的に運営する体制としました(定員180名)。長期入所部門の平成24年度の年間利用率は99.1%であり、目標の98%を超えました。超重症児・準超重症児の占める比率は24.5%と全国の旧重症心身障害児施設の中でも比較的高い比率を保ち重症化に対応した施設となりました。

短期入所（定員 8 名）は、ベッドコントロールを綿密に実施して年間平均利用率は 100%（目標 85%）となりました、また、在宅人工呼吸管理を実施している方の短期入所受け入れ対象者数も、平成 23 年度の 2 名から平成 24 年度は 6 名に増加しました。

② 地域支援部門は、多機能型児童発達支援事業所として運営を行いました。

重症児者通園事業(A型)を、生活介護（15名）と放課後等デイサービス（5名）として一体的に運営する体制としました（スペースの関係から実質定員は両方を合わせて1日15名）。隔週で土曜日も開所しサービスの改善を行いました。一日平均利用者数は、13.3名であり、平成24年度（12.5名）より増加しました。

小松事業所に、発達障害児を対象とした児童発達支援事業（児童デイ）（1日定員10名）を新たに開設しました。開所6カ月間の平均利用者数は1日5.8名であり増加傾向にあります。

③ 指定特定相談支援事業の指定を受け、相談支援事業を実施しました。また、平成23年度に引き続いて兵庫県の圏域コーディネート事業を受託しました。

2. 財務状況

長期的な事業継続性を保証するために財務基盤の安定に努めました。

① 平成24年度の経常収支は約1億4千万円で、平成23年度より約900万円減少しました。入所部門の医療費収入と自立支援等収入の減少がありましたが、重症児者通園事業の法定化による収入増と訪問看護や短期入所等地域支援部門の収入増があり、全体としては比較的少ない減少にとどまりました。結果として将来に備えた積立金に相当する額を確保できました。

② 従来から財務上の懸案となっていた各地域支援部門の収支は大きく改善し、黒字化を達成した部門（訪問看護、短期入所）以外の部門も赤字幅が縮小しました。

3. 人材育成

「障害者総合支援法」を見据えた構造改革と研修システムや人事異動を通じて優秀な人材の育成や確保を行いました。

① 計画的な援助等を通じて、事業所の運営に必要な資格の取得を推奨しました。平成24年度は、社会福祉士1名、サービス管理責任者4名、介護福祉士4名が新たに資格を取得しました。

② 平成24年度厚労省「重症心身障害児者の地域生活モデル事業」を受託し、重症児ケアマネジメントのコーディネータを育成しました。

③ 部門間の積極的な異動や兼務を行い、複数部門を経験することによって幅広い分野に適応した視野の広い人材を増やしました。

④ 武庫川女子大学大学院等の外部教育機関を利用した役職候補者のための大学院教育の候補者を募集し、武庫川女子大学大学院に1名が入学許可されました。

⑤ それぞれの部門内部で計画的な研修計画を立案し、研修制度の利用を通じて、センターにとって必要な人材を育成しました。

⑥ 大阪市立大学小児科から若手の小児科医のローテーションを実施しました。

⑦ 日本重症児福祉協会認定・重症心身障害看護師の研修会に2名を参加させました。この研修会への参加を通じて重症心身障害の看護に意欲的な看護師の確保と育成に努めました。また、研修会の

講師や会場を分担しました。

4. 設備ならびに病院機能の改善

障害児者や保護者の要求に応えるために病院機能を充実させました。

- ① 障害児者の専門施設として、地域の障害児者の二次診療を行いうるよう機能向上を行いました。評価の向上に伴い、保健所等の行政機関や医師会会員からの紹介患者数が増加しました。
- ② 前年度末に兵庫県の補助を受けて設置した在宅支援ベッドを利用した入院加療を実施しました。
- ③ 診療支援機能としてオーダリング機能を8月末に導入しました。医事システムと連携させながら効率化を推進しました。
- ④ 兵庫県の補助を受け、入所用として生体情報モニター等の医療機器の整備、通所用として天井走行リフト、電動ベッド、携帯用吸引器等の医療機器の整備を行いました。
- ⑤ 外来診療部門は、小児神経、ダウン症、発達障害、リハビリ等の専門外来を開いており、患者数、紹介患者数の増加がみられました。すでに、予約をとりにくい状況が生まれつつあり、さらなる医師の確保が課題です。

5. 介護サービスの向上

利用者に安全・安心なサービスを提供します。

- ① 安全対策委員会を毎月開催して、インシデント、アクシデントレポートの解析を行ってリスクマネジメントを実施しました。また、委員による職場巡回を通じて、リスク低減の対策をとりました。
- ② マイスター制度を創設し、介護技能に優れた職員をマイスターに任命して、職員の介護技能の指導を実施し、技能の伝達を推進しました。
- ③ 設定活動など利用者の生活の質を向上させる取り組みを充実させました。
- ④ 高齢化に伴い増えてきた痛等の利用者様を対象とした緩和ケアを実施しました。

6. 防災対策

大規模災害に対応した防災体制を確立し、マニュアルの作成や連絡網の構築、避難訓練の実施を行いました。

- ① 地震、津波だけにとらわれず、多くの災害を想定して臨機応変に対応できる体制を作りました。災害時の対応マニュアルの定期的な見直しを行いました。
- ② 兵庫県の補助を受けて、停電時の携帯用簡易発電装置を12台購入し、操作訓練を行いました。また、人工呼吸器用のバッテリーを2台購入しました。
- ③ 災害時の備蓄物品の備蓄日数を3日分から7日分に増量し、大規模災害への備えとしました。
- ④ 職員だけでなく実際の入所者も参加した防災訓練を実施し、避難時の実際の動きについて体験しました。

7. 広報・地域交流

- ① ホームページを頻回に更新して、事業内容や施設の情報などを広報するとともに、人材確保等にも努めました。

- ② 広報誌「すなご」を定期的に発行しました。
- ③ 地域に根ざした開かれた施設を目指し、ボランティアの方々などとの交流、連携に努めました。「ボランティア感謝のつどい」を開催し、ボランティアの方々と職員との交流を強化しました。
- ④ 療育祭の開催やランプフェスティバルへの参加を通じた地域交流を行いました。
- ⑤ 厚労省「重症心身障害児者の地域生活モデル事業」の報告会とシンポジウムを開催しました。100名を超える方々の参加を得ました。

8. 連 携

当センターは重症児者を中心とする総合的な障害児者支援を行っており、業務は多岐にわたっています。各部門の活動目的を明確にする一方で、部門の垣根を越えた協力を推進し、「報告・連絡・相談」の徹底を図りました。